「りゅうま伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に伺う。という氣持ちでお届けしています。

りゅうま伝

17号
2021年4月26日
高野竜馬

「失敗者を敗者と見るか・・・」

先月の「りゅうま伝」で不運続きと書いたら読者から心配のメールを頂いた高野です(汗)。

日頃、経営者団体の諸先輩から「物事が上手く運ばない時は受け入れなさい！」とご指導されてきたおかげか、4月を迎えて少し風向きが変わってきました。どうか、ご安心くださいませ。

一方、ウチの息子6歳は私とは逆に何をやっても案外上手にこなすタイプで、モノの好き嫌いもハッキリしています。

3歳の時、サッカーの体験教室に行った際も練習は頑張ったものの入部はキッパリ断りました。しかし昨年末、体も出来上がってきたので、もう一度サッカーでもやってみようかとなり体験入学させることに。

1回目、無事、楽しく体験。ところが2回目の体験教室が終わった時、表情が暗かったので家内に確認してみると「アソコは嫌だ！」と言った模様。

そこで夕飯の後、「サッカー教室でなんか嫌なことあったか？お前が嫌ならやらなくて良いんだよ」と言うと大粒の涙をポロポロと流します。

体験させたサッカー教室は、保育園育ちのワンパクな子が多く、ボールを奪う前に相手を蹴り、ひるんだ瞬間にボールを奪う女の子なんかもいて、かなりワイルドです。日頃の保育園内での確執を見てるかのようです。

サッカーが嫌いなのって聞くと首を横に振ります。何か痛い思いでもしたかって聞いても首を横に。お友達と嫌なことがあったのって聞いても首を横に・・・。

よくよく聞いてみると練習でボールの奪い合いに競り負けてしまうのが屈辱のようでした。

おっとりした幼稚園で育った優等生タイプの息子にとって初めての挫折です。悲しそうに泣く息子を見て私と家内はサッカーをさせることにしました。

ここでヤメてもまた同じ様な事が必ず起こるからです。だったら負けから這い上がる努力を、それでも負けるなら、負けを受け入れる心を身につけてもらいたい、そう考えて入部させることにしたのです。

しかも一度嫌と言ったら聞かない息子も今回は承諾したのが不思議でした。

以来、私は時々、仕事を抜け出して練習を見るようにしました。どういう所で競り負けているのか確認して、週末に二人で練習しました。

あれから半年、この4月、息子はピカピカの一年生になり、少しだけ逞しくなりました。

まだ周りの子には敵わないけれど、それでも一生懸命走る息子の姿を見ると私も勇氣が湧いてきます。

失敗者を敗者と見るか？勇者と見るか？

親子ともども試されているなーと実感する今日この頃です。

感謝之印

たかの財形事務所
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13
090-3407-2123
https://www.takanozaikei.com メール fp.takano@gmail.com

いつも応援してくれて有難うございます。